

千葉市 政令指定都市20年の検証について

平成25年8月20日視察

町田市議会 志政クラブ 吉田つとむ

千葉市は1992年に指定され、政令指定都市20年を経る。人口は96万人を数え、平成27年にピークを迎えると見られています。少子超高齢化、人口の減少が今後の施策対策の基本とみなされています。

首都圏の他の政令指定都市と共同して、特別自治市を目指しています。下記の別記に示したように、県との重複事業を無くして、効率化を目指しています。

市内の行政は6区に編成され、市役所や県庁がある中央区が中心にあります。また、行政では千葉県において「県都」と呼ばれています。

財政的には都市基盤整備、モノレール建設運営負担があり、政令指定都市で厳しい状態にあるようです。財政健全化に向けた志向が優先的な政策となっています。

街の発展イメージは、資料の市長の2期目インタビュー記事にあります。ヨットハーバー地区に公募民営で結婚式場やレストランを造る。横浜の赤レンガ倉庫に対して蔵カフェを造る。首都圏ぶらずに、観光農園や芋ほり、近くで地引網ができる、東京に近い田舎の良さをアピールするべきというような趣旨の発言があります。

市長によって、自身の分析に基づく地域と人口動静に即した将来像が目指されており、堅実性が特徴です。

目に見える都市の良さでは、住宅敷地価格が安いということがあります。比較表が作成され、相模原市より安く、川崎市の半分以下と言う表が作成されています。「表題：マイホームを持つなら千葉市に住もう！」次いで、子育て環境の良さを提示しています。認可保育所数の増加と待機児童数の減少数、小児科比率の高さなどを明示しています。

私には「躍進」のイメージがある「千葉」なのですが、現実の行政施策は堅

実がテーマのようです。都市のあり方の一つとして、学ばせて頂きました。

● 以下、参考記述

<政令指定都市>

政令指定都市とは、地方自治法第 252 条の 19 に基づいて、政令で指定する人口 50 万以上の都市とされています。

視察先の千葉市の説明では、以下のように記させています。

- 政令指定都市とは、都市圏において中心的な都市として、また、全国の都市をリードする大都市として政令で指定する人口 50 万人以上の市を言います。
- 政令指定都市は、市民生活に関わりの深い事務のほとんどを行います。

その千葉市は 1992 年に指定。そもそも政令指定都市は 1956 年に発足し、当初、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市が指定。人口の目安は 100 万人。ちなみに、私が居住した福岡県では 1963 年に北九州市が、1972 年に福岡市が川崎市や札幌市とともに指定。

その後、人口の目安が 70 万人とされる。現在は 20 市が指定。隣接の相模原市は 2010 年に指定。

当該自治体内に区役所を配置されるのが特徴です。議員の選挙は各区ごとに行われ、議員がより身近になっているとされています。(千葉市の資料による)

<特別自治市>

千葉市が参加する指定都市 7 市による大都市制度共同研究会が求める制度。現行の政令指定都市が暫定的な制度としてあることを、本来の大都市制度に変え、社会変化に対応した強くて柔軟な政治を求めている。特に、県・政令指定都市の事務の重複を排する制度を提唱しています。

横浜市がこの主導権を取っているようですが、神奈川県においては川崎市、相模原市を含めて 3 市が政令指定都市となっており、県下の人口の 3 分の 2 近いほどの規模となっています。

なお、大阪では、大阪府・大阪市のトップが連携して大阪都を誕生させる動きの政党が出現し、その動向は不明としか言えません。

他の地域の大都市では、道州制の移行を見込んだ考えもあり、全体の動向は不明です。現実的な自治体の選択の動向は、この政令指定都市を目指す都市が

目立っています。